

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 1.13 更新記録

2008/10/29
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

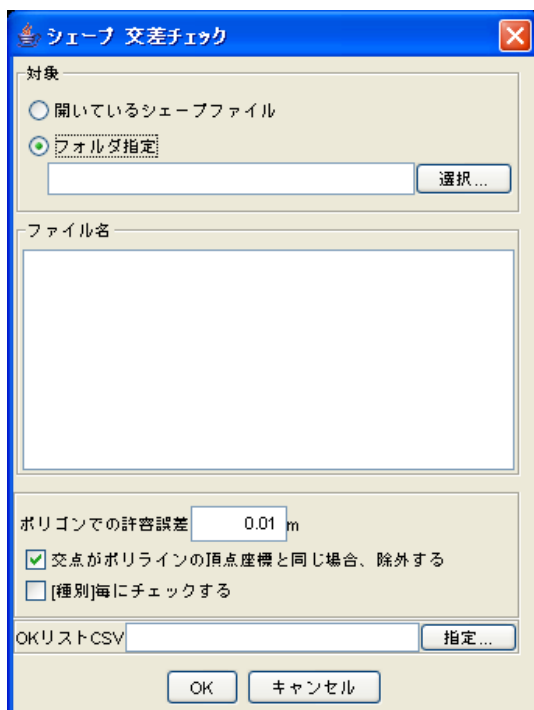
1. proxy

[基盤地図情報 XML]-[基盤地図情報 XML 作成]で、実装ガイドで例示されている地物について、要素「proxy」を出力していました。この要素「proxy」を出力しないようにしました。

2. シェープ 交差チェック

新メニュー[チェック]-[シェープ 交差チェック]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

ポリラインとポリゴンのシェープファイルについて、ファイル内の交差をチェックします。



ファイル名

開いているファイルあるいはフォルダのファイルを選択してください。ファイル別にチェックします。ポイントのシェープファイル名も表示しますが、ポイントはチェック対象外です。

ポリゴンでの許容誤差

ポリゴンの交差チェックで、ポリゴンがわずかに重なっている場合を許容する場合、その重なりを指定します。ポリゴンに内側の点とポリゴンの線との距離が指定された値より小さい場合、リストアップしません。

交点がポリラインの頂点と同じ場合、除外する

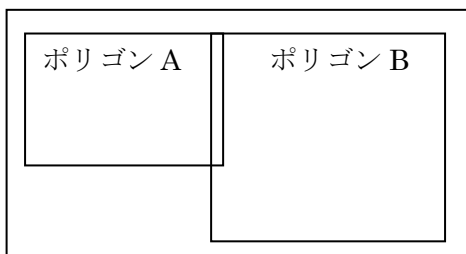
ポリラインのシェープについて、ポリラインとポリラインの交点がポリラインの頂点と一致する場合、リストアップの対象がとします。

[種別]毎にチェックする

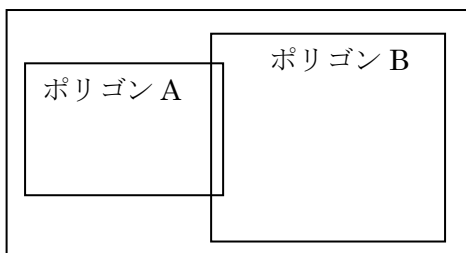
シェープファイルに属性「種別」あるいは「TYPE」がある場合、その種別毎にチェックします。行政区画のポリゴンでは「町村・指定都市の区」のポリゴンが「大字・町・丁目」のポリゴンなどを含むケースがありますが、それぞれをわ

けて検査するためのオプションです。

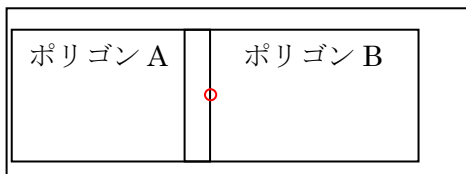
ポリゴンの場合は、ポリゴンの点が決定的に他のポリゴンの中に入っている場合を検出します。下図では、ポリゴン A の右下の点が決定的にポリゴン B の内側にあるので、ポリゴン A の右下の点をリストアップします。ポリゴン A の右上の点は、ポリゴン B の線上にありますが、内側ではないのでリストアップしません。



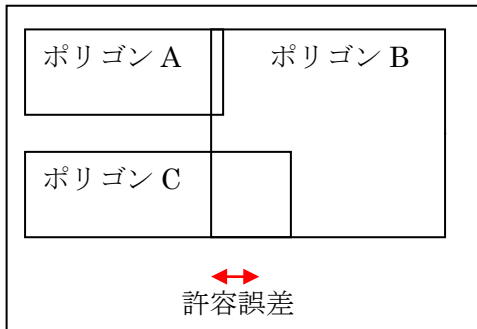
ポリゴンの点が決定的に複数、他のポリゴンの内側に入っている場合、リストアップするのは1点です。下図ではポリゴン A の右上と右下の2点が決定的にポリゴン B の中にありますが、右上か右下どちらかポリゴンの点列の始点に近いほうをリストアップします。



下図のようなケースに対応するため、ポリゴンの点列の点のみでなく、点列の midpoint もチェックします。下図ではポリゴン A の右上と右下の点はポリゴン B の線上にあり、リストアップされませんが、右上と右下の midpoint がポリゴン B の内側に入っているため、これをリストアップします。同時にポリゴン B についても、左上と左下の midpoint がポリゴン A の内側に入っているため、リストアップします。



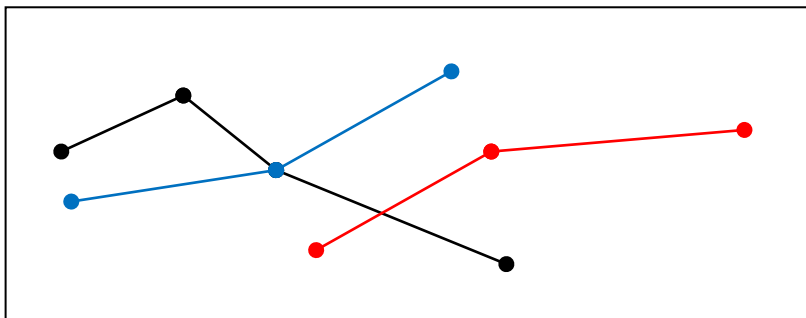
ポリゴンとポリゴンがわずかに重なっている場合を除外したい場合、許容誤差を指定してください。他のポリゴンの内側に入っている点とそのポリゴンとの距離が指定された値より小さい場合、リストアップしません。下図では、ポリゴン A の右下の点はポリゴン B の線に近いのでリストアップされず、ポリゴン C の右上の点はリストアップされます。



許容誤差の値が 0 に設定された場合、実質的には 1mm の許容誤差で検査します。ポリゴンの点が他のポリゴンの線上面にのっているかの判定で、点と線の距離が 1mm 以下ならのっていると判定しています。

ポリラインのシェープファイルでは、ポリラインとポリラインの交差を調べます。ポリラインが端点で接している場合は交差ではありません。

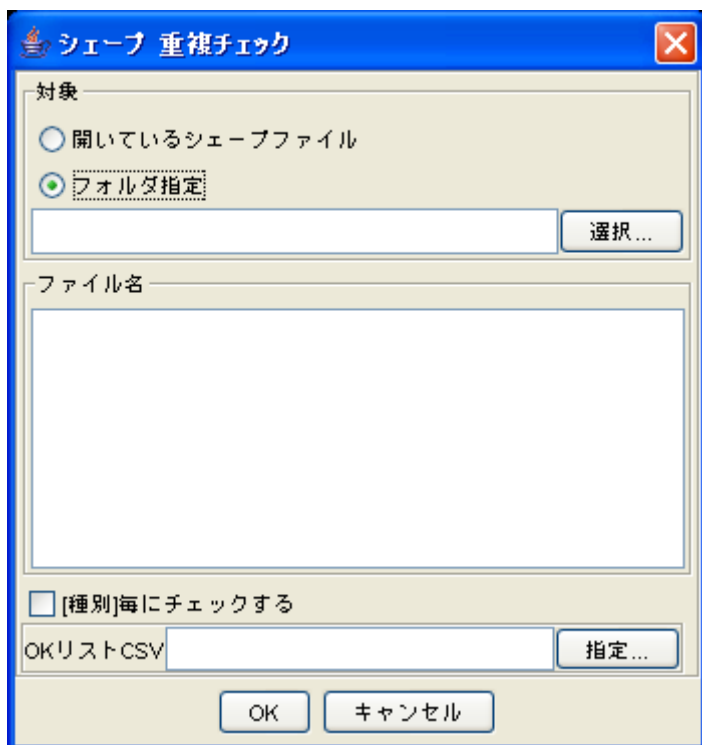
[交点がポリラインの頂点と同じ場合、除外する]が ON の場合、下図では黒いポリラインと青いポリラインの交点はそれぞれの頂点の上と同じ座標なので、リストアップしません。黒いポリラインと赤いポリラインの交点がリストアップされることになります。



3. シェープ 重複チェック

新メニュー[チェック]-[シェープ 重複チェック]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

ポリラインとポリゴンのシェープファイルについては、同一ファイル内で重なっている線分を検出します。ポイントのシェープファイルについては、同一 XY 座標のポイントが重なっている場合を検出します。



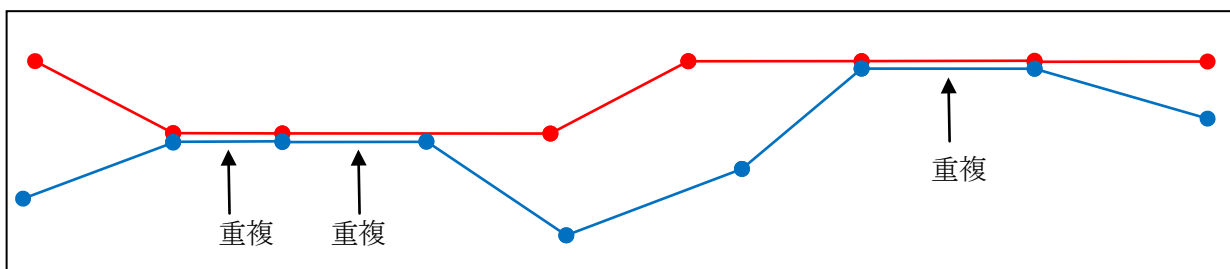
ファイル名

開いているファイルあるいはフォルダのファイルを選択してください。ファイル別にチェックします。

[種別]毎にチェックする

シェープファイルに属性「種別」あるいは「TYPE」がある場合、その種別毎にチェックします。

線分の一部分が重なっている場合も検出します。ひと組のポリラインが複数の線分で重なっている場合、その線分をすべてリストアップします。線分間の距離が 1mm 以下の場合、重複していると判定します。

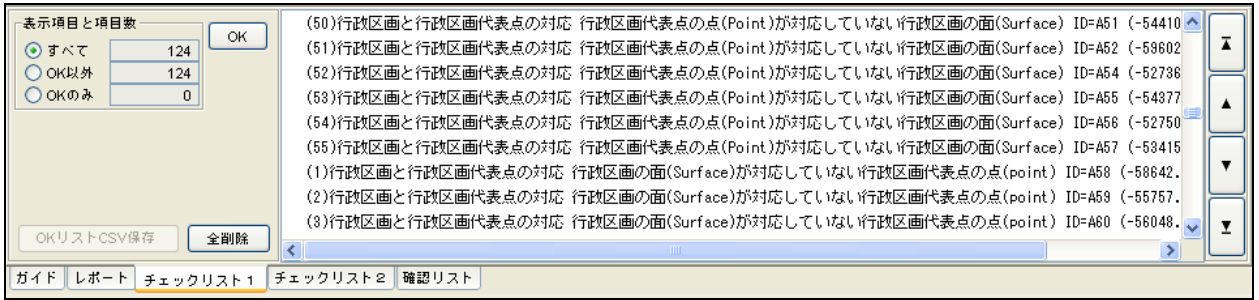


4. 行政区画と行政区画代表点の対応

メニュー[基盤地図情報]-[シェープファイル検査]と[基盤地図情報 XML 検査]に行政区画と行政区画の代表点の対応の検査を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

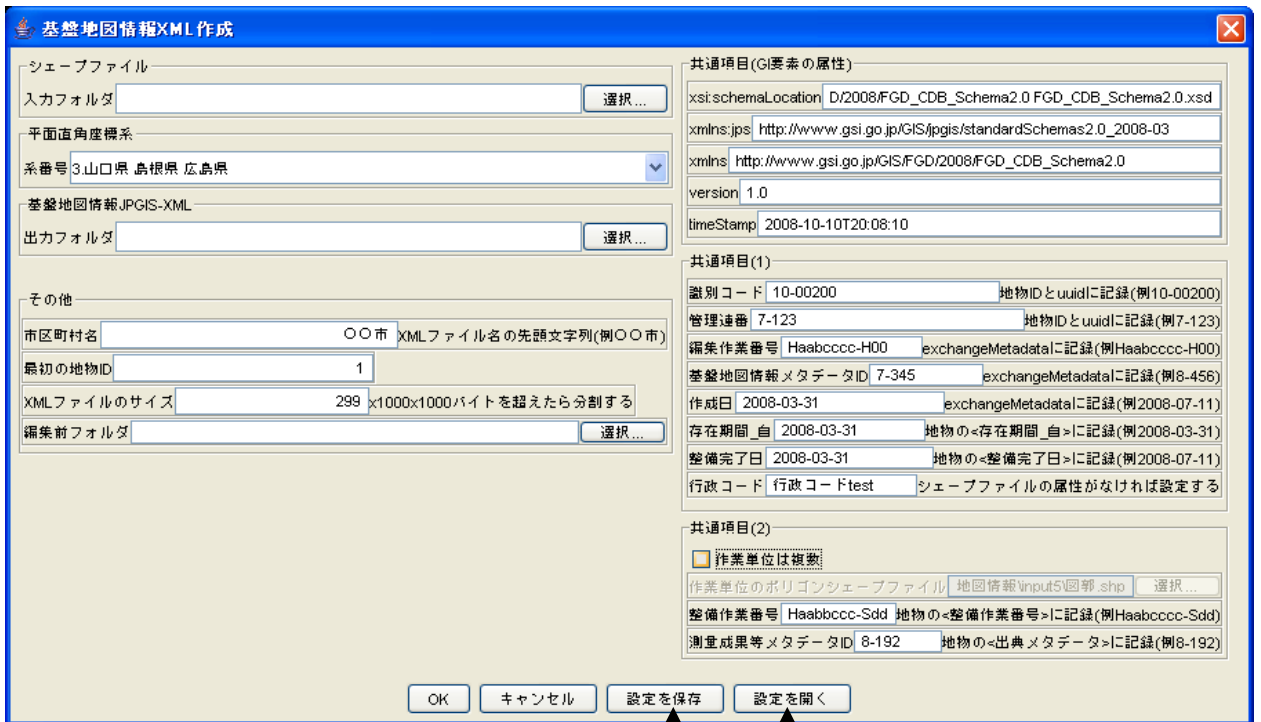
【行政区画と行政区画代表点の対応】

行政区画代表点の点(Point)と対応する行政区画の面(Surface)を調べます。行政区画代表点の点(Point)に注目し、点(Point)が行政区画の面(Surface)の外周(exterior)の中にあり、かつ、タグ[種別]と[名称]の内容が同じ場合、その点(Point)と面(Surface)は対応しているものとします。対応している面(Surface)がない点(Point)と対応している点(Point)がない面(Surface)をリストアップします。



5. その他

メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 検査]にダイアログの設定内容を CSV ファイルに保存し、再現する機能を追加しました。



【設定を保存】

ダイアログの設定項目を CSV ファイルに保存します。

【設定を開く】

[設定を保存]で保存した CSV ファイルを開き、ダイアログの設定内容を保存時と同じ内容に戻します。